

BY BLUE

2008
VOL

23

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

- 水の逸話を訪ねて…P1
「源氏物語」京都府宇治市
- 食材を活かす 水の妙…P2
「吉野本葛」
- 水とともに…P5
「橋板」
- おもしろ科学実験 水のふしぎ…P10
「雲を作ろう!」

つくってみよう!

うらのページに、
この折り紙の
折り方がのってるよ!



宇治橋西詰に建つ紫式部像。宇治橋の南東にある朝霧橋東詰には宇治十帖のモニュメントも建っている

源氏物語

宇治橋のながき契りは朽ちせじを あやぶむ方に心騒ぐな

(あの長い宇治橋のようにふたりの仲はいつまでも長く朽ちはしないのに行く末を疑って心を騒がせ不安がるのはおよしなさい【『源氏物語 卷十』瀬戸内寂聴訳より】)

今年千年紀を迎えた紫式部の「源氏物語」。華やかな宮廷を舞台に、主人公光源氏をとりまく多くの女性たちとの恋愛、人間模様、そして因果応報を描いた、全五十四帖の物語です。この物語の最後の十帖は「宇治十帖」と呼ばれており、舞台を都・京都から宇治へと移し、光源氏の子や孫の世代の、複雑な恋模様を描かれています。当時の宇治は、都からも近く、宇治川をめぐり風景も美しいことから別荘地として人気が高く、平安貴族の愛する地でした。宇治十帖は「橋姫」で始まり、「夢浮橋」で終わるように「橋」がひとつのキーワードとなっています。紫式部が物語の締めくくりに宇治を選んだのは「橋」を物語の舞台を移す装置として、また、世代をつなぐ架け橋として、当時の貴族たちが別荘の往来に利用した宇治橋を意識したのではないとも言われています。源氏物語はフィクションですが、多くの古跡が存在していることも特徴的です。宇治川沿いに並ぶこれらの古跡には、古の恋絵巻に魅せられた、人々の愛着が込められているかのようです。

食材を活かす 水の妙

吉野本葛

葛根の不純物を水が取り除く。「晒し」は450年の伝統製法



木箱で乾燥させた葛粉(手前)と晒しを行うための水槽。

葛切りや葛湯など、自然食材として親しまれる「本葛」。その原料は、ツル性の多年草・クズの根です。クズは隣の木にからみ、覆うように茂って、下になる植物を枯らすほど成長力がおう盛。野山に育つ豊富な栄養源・澱粉は、古く室町時代から食用にされ始めたといわれます。

奈良県宇陀市大宇陀区は、約450年の歴史を誇る本葛の産地です。同地で20代続く森野吉野葛本舗の森野智至社長は「精製にたくさんの水を使いますし、いつも『水に恵まれている』と感じています。厳しい冬の寒さで水中の細菌の繁殖も抑えられています」と大宇陀にそろそろ葛づくりの好条件を挙げます。奈良県の大和高原、宇陀山系区の年間降水量は、1500ミリ前後。わき出る地下水が本葛づくりに重要な役割を果たしているのです。

「白いダイヤ」は根気と辛抱の結晶

本葛の製造工程は大きく分けて、破碎、晒し、乾燥の3段階。①破碎…木質化した茶色の葛根を細かく潰し、水に浸してから澱粉を搾り取ります。

②晒し…澱粉を水槽に入れて攪拌、2日かけて自然分離させ、不

純物を含んだ上層部分を排水。再び水を入れ、同じ作業を繰り返すと約10回、3週間かけて白色の葛粉だけを残します。

③乾燥…葛粉を手割りで乾燥用の木箱に入



山の緑が美しく、自然豊かな大宇陀のまち。

れ、水分が飛ぶまで寝かせます。低価格で流通するかたくり粉は、ジャガイモの澱粉質を機械で遠心分離できるため、短期間で大量生産が可能です。しかし、葛根の澱粉質は粒子が小さく、負荷をかけると壊れてしまうほど繊細。そのため、水を使う手作業の「晒し」が現在も行われているのです。製造期間は厳冬の12月〜2月に限られるため、繰り返し冷たい水を扱う職人さんには、根気と辛抱強さが求められます。手作業を繰り返し、最終的に葛粉となるのは葛根量の10%以下。生産量が少ない貴重品で、「白いダイヤ」「白金」とまでいわれます。

(撮影協力/森野吉野葛本舗)



葛の葉



掘り起こされた葛根。断面に白く澱粉が浮き出るような根が良質とされる。



涼感あふれる「葛切り」。舌触りのなめらかさは本葛ならではの。

ライン川ならびに レマン湖水質保全調査団を 派遣しました

諸外国でも富栄養化や有害化学物質等琵琶湖・淀川流域と同様の問題を抱えており、水質浄化技術の研究や水環境改善対策等様々な取り組みがなされています。(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、各国の水環境保全機関との間に技術交流の協定を交わすと共に、現地調査やシンポジウムを行い、得られた情報を琵琶湖・淀川流域の水質保全に役立てる活動を行っています。

ドイツにある国際ライン汚染防止委員会(ICPR)とは1995年に「水質保全の研究及び技術交流に関する共同声明書」という協定を締結しています。最近、琵琶湖・淀川流域では富栄養化に加え微量有害物質や地球温暖化等が問題となっていることを踏まえ、ICPRを訪問すると共に、ライン川、ボーデン湖ならびにレマン湖等の現状を視察し水質保全の国際的取り組みについて調査するため調査団を派遣しました。

◇ 調査団概要 ◇

(1) 調査団メンバー

宗宮功団長(京都大学名誉教授、龍谷大学教授)
ほか6名

(2) 訪問先

- ① 国際ライン汚染防止委員会(ICPR)及び
ライン川視察
ドイツ、スイス、ルクセンブルグ、フランス、オランダ等による組織、1950年に設立、事務局はドイツのコブレンツ
- ② 国際ボーデン湖水質保護委員会(IGKB)及び
ボーデン湖視察
ドイツ、スイス、オーストリア等による組織、1959年に設立、事務局はドイツのランゲナーゲン
- ③ レマン湖水質保全国際委員会(CIPEL)及び
レマン湖視察
スイス、フランスによる組織、1963年に設立、事務局はスイスのニヨン
- ④ チューリッヒ市水道局及び
ハードホフ浄水場視察(スイス チューリッヒ)

(3) 派遣期間

平成20年7月12日~平成20年7月20日

◇ 成果 ◇

ヨーロッパの水環境の状況と水質保全の国際的取り組みについて調査し、次のような成果を得ることができました。今後の琵琶湖・淀川での水質保全に活かしたいと考えます。

- (1) 国際組織における事業の推進方法(大臣会議を頂点として各国及びそれらの地方組織へ施策を浸透させる効果的な手法とその成果)
- (2) 大河川と自然湖沼におけるリン・窒素等の改善状況(過去の汚染状況及び原因並びに改善手法及び改善状況)
- (3) 大河川と自然湖沼における有害物質事故対応と微量有害物質の把握
- (4) 河川と自然湖沼における本来の地形及び生物種の回復を目指した生態系の保全
- (5) 自然湖沼における地球温暖化の影響(湖水循環や生態系など水環境への影響の把握)
- (6) 永世中立国スイスにおける水道の安全性(水源の危機管理と水質上の安全についての考え方)

ライン川

スイスアルプスを水源とし、ボーデン湖に入り、ドイツ、オランダなどを経由し北海に注ぐ国際河川です。マインツからコブレンツの間は古城が点在しロマンチック街道として有名です。

項目	ライン川流域	琵琶湖・淀川流域
延長	1,320km	75km
平均流量	2,200m ³ /s(独蘭国境)	267 m ³ /s(枚方)
流域面積	200,000km ²	8,240km ²
流域人口	5,800万人	1,200万人

ボーデン湖、レマン湖

ボーデン湖は、ドイツ、スイス、オーストリア国境に位置し、ライン川が流入、流出する湖です。上部湖と下部湖に分かれます。レマン湖は、スイス、フランスの国境に位置し、フランス南部から地中海に注ぐローヌ川が流入、流出する湖です。1980年頃にはリンによる汚染がひどくなりましたが、近年水質は改善しています。

項目	ボーデン湖	レマン湖	琵琶湖
面積	536km ²	580km ²	674km ²
平均水深	90m	153 m	41m
最大水深	254m	310m	104m
集水域	11,500km ²	7,975km ²	3,848km ²
貯水量	480億m ³	890億m ³	275億m ³
湖水滞留時間	4.3年	11.4年	約5年



ライン川が利水や治水の上で重要であるのは淀川流域と同じですが、マインツ-コブレンツ間の約100kmが世界遺産となっており、舟運も盛んで資源輸送の大動脈となっている等、淀川流域との差も見られました。



ライン川支流ネット川における修復プロジェクトでは、河川の流路を出水期の水勢に任ず方法が採られていました。



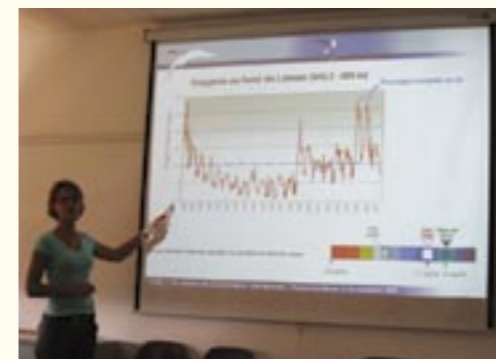
国際ライン汚染防止委員会のメンバーと会合し、栄養物資対応、微量有害物質対応等について意見交換をしました。



ボーデン湖は、水質保全や湖岸修復に力を注いでいました。



氷河の水がローヌ川となりレマン湖に注ぐことにより、レマン湖水を大循環させ酸素を供給する力となっていますが、地球温暖化の影響が懸念されています。



レマン湖水質保全国際委員会では、富栄養化対応、微量有害物質対応、地球温暖化の影響について説明を受けました。



チューリッヒ市水道局の監視室では3つの浄水場と市内配水をコントロールしています。湖水、伏流水、湧水と3つの水源を確保し危機管理対策をとっています。



チューリッヒ市水道局の河川伏流水取水施設。地下水位を制御して伏流水の水質を確保しています。日本と比べ、水源確保の安全性の高さを感じました。

湖と暮らしをつなぐ架け橋 水の大切さ守り伝える

洗濯や野菜の洗い場として、琵琶湖湖岸に設置された橋板。水と暮らしの密接な関わりを示す貴重な湖岸の風景が、地域の住民によって守られています。



橋板は今も野菜洗いに使われています

橋板とは、琵琶湖湖岸から湖面に突き出させた幅30cm、長さ3m程の手づくりの木板。住民が洗濯や食器を洗う場として設置されてきました。家の近くに共用井戸がなかった湖岸住民にとって、琵琶湖は毎日の暮らしを支える貴重な水源。橋板は、日常的に水を利用するために欠かせないものだったのです。



湖岸で泳ぐオイカワ

当時は、湖岸沿いの世帯が、それぞれ自前の橋板を1本ずつ持ち、約300mの湖岸沿いには5m程の間隔で20本以上の橋板が並んでいました。世帯ごとに設置していた橋板ですが、湖岸から離れて暮らす住民にも自由に使われていました。

「橋板は文化遺産」 平成19年に 占用許可得る

多いときには20本以上並んだ橋板ですが、上下水道が普及しはじめた昭和30年ごろには、徐々にその本数は減少。残った橋板も県から河川法違反に当たると指摘を受け、撤去を求められました。しかし、平成19年に県が水を大切に使う暮らしを象徴する文化的価値を見直し、設置を許可する方針に転換。現在では、橋板を含む「高島市海洋・西浜・知内の水辺景観」が国の重要文化的景観に選定され、地域の文化財としても保

存されています。

マキノ町に現存する7本の橋板のうち、使用されているのは4本。60年程前からこの地域で暮らす小多明さん、三九子さん夫妻は、今も橋板を設置している世帯の一つ。明さんは、県から占用許可が認められてほっとしたといいます。「子どものころの日課は、ふるの水くみ。バケツを持って湖と家を10回以上往復しました。夕食のおかずを魚を捕まえたり、橋板はなくてはならない生活の一部でした」。

厳しい冬の季節には地域で助け合いながら湖の水を使用しました。高島市は冬場の積雪が1mを超す豪雪地。明さんは橋板を利用する人のために、自宅の庭を除雪して湖岸に通じる道を作りました。「今でも浜に出るとご近所の方と気軽にいさつをして、子どもの話題に花が咲きます。私にとって橋板は人との交流の場」と三九子さんは話します。

橋板は湖と暮らしだけでなく、水を大切に使用したいと願う

人を結ぶ架け橋です。高島市立マキノ東小学校では、橋板と水辺の環境を守る湖岸清掃を実施。地域の人々の協力を得ながら取り組むことで、琵琶湖に親しみ、守ろうとする意識を高めています。かつては、手でくえるぐらい魚がたくさんいたといいます。輝きながら泳ぐ魚の群れを今も見ることができるとは子どもと大人が一緒に琵琶湖を守っているおかげでしょう。

世代を越えて結ばれた人々が湖岸の暮らしぶりの原風景を守っています。



琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水質浄化技術の研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの方々に知ってもらうための場として設置された施設です。



「珪藻の増殖を目的とした 河川・湖沼におけるケイ酸濃度制御方法に関する実験」

実験レポート (株)ニュージエック

富栄養化が進行したダム湖やため池ではアオコ等の植物プランクトンの異常増殖がしばしば見られ、透明度の低下や景観の悪化が問題となっています。また、これらが腐敗すると異臭の発生や底層での貧酸素化など、健全な生態系を大きく変化させてしまいます。

さらには「ミクロキスティン」^①、「ジオスミン」^②などを生産する有害・有毒プランクトンが異常発生すると、鳥類等への被害や、上水利用時の異臭味の発生、高度浄水処理が必要となるなど、社会的にも大きな問題となります。

(株)ニュージエックでは、石巻専修大学の高崎みつる教授と共同で、ケイ酸を利用した水質浄化について研究を進めており、平成19年度からは、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターとの共同実

験として、Biyoセンターの深池型浄化実験施設を使用した野外実験を行っています。

ケイ酸は珪藻類の栄養源として重要な元素ですが、窒素やリンによる富栄養化が進むと相対的にケイ酸が不足し、珪藻類と他の藻類との間のバランスが崩れ、アオコ等の異常増殖に結びつくと考えられています。

開発中の新しい浄化技術はケイ酸を人為的に添加することにより窒素・リン・ケイ酸の比率を正常に戻し、健全な生態系を取り戻すことを目的としています。

実験では、ケイ酸の添加及び窒素吸着を目的とした「シラスチップ層」および「沈木層」を通した水が入る実験区と、原水がそのまま入る対照区に分け、透明度、水質、植物プランクトンの増殖などの違いを計測しています。



シラス



シラスチップ



対照区

実験区

実験状況

これまで実験結果から、ケイ酸を供給した実験区においては透明度の向上、珪藻類の増殖が確認できています。

今後は、ダム等における実験成果の応用・実用化に向け関西電力(株)などの協力を得ながら、このケイ酸供給技術を確認し、実水域でのアオコの発生抑制や水質改善に取り組んでいきたいと考えています。



①



②



①ワークショップで川遊びを楽しむ子どもたち
②毎年3月に開催している「寄り合い会議」
③定期的に発行しているかわら版



●BYスタンプラリー協賛グループ紹介 子どもと川とまちのフォーラム

「それぞれの私の流域」をテーマに
目指すは「川からのまちの再生」

■今回は事務局長の塚本明正さんにお話をうかがいました。

私たちが暮らすまち、川、人。将来

にわたって豊かに住み続けるためには、今直面している多くの課題を改善・解決する必要があります。そのために、それぞれのまちや流域に生活する、子どもを含むすべての住民が主体的に考え、行動できるきっかけと場の提供をしています。

会員数80人のうち、約20人が小・中・高校生と、活動の主役は「子どもたち」。行政関係者や研究者など、多様な経験と知恵を持つ人々との連携、交流を大切にしながら活動しています。

主な活動は、毎月1〜2回のペースで行われる川歩きや、事務所での会合。毎年3月の「寄り合い会議」や、8月には一泊二日のワークショップも開催しています。また、様々な活動の報告となる、各種印刷物の編集作業に力を入れているの

も特色です。

元々は03年3月に京都・滋賀・大阪で開催された「第3回世界水フォーラム」での子ども特派員活動がきっかけで設立されたという経緯もあり、第4回世界水フォーラム(※)への特派員派遣や、チェコやカ

ンボジア、中国への流域視察を行うなど国際活動の実績も豊富です。しかし、塚本さんは「国際活動もいろいろやってきたけど、基になるのは『それぞれの私の流域』。自分のことをわかっていないと海外に行っても話ができないからね。参加してくれる子どもたちにもそのことは常に言っています」と話します。

「活動を通して、子どもたちの成長を感じることも多いです。多世代・多分野の人びととの関わりや様々な地域、自然をベースにしたバーチャルでない現場を見て回る

ことで世界が広がったり、相対的なもの見方ができるようになってきています。その分、大人たちも子どもたちと対等に、真正面から向き合いますし、良い相乗効果が出ているんじゃないでしょうか」とも。

07年5月にはNPO法人として新たなスタートを切った同フォーラム。まちと川、人をつなぐコミュニケーションの場として、ますますの発展が期待されます。

※メキシコのメキシコシティで06年に開催



事務局長 塚本 明正さん

めざせ! 水アーティスト 雲を作ろう!

空にぽっかりと浮かぶ雲。いったいどうやってできているのでしょうか。
実は雲は、水蒸気という目には見えない細かい水の粒が集まってできているのです。
ジュースのペットボトルとフイズキーパーを使って、小さな雲を作ってみよう。



用意するもの

- ・ペットボトル (炭酸飲料用の500mlサイズ)、水 (少量)
- ・フイズキーパー (炭酸がぬけないようにするためのペットボトル用のポンプ式キャップ。ホームセンターなどで買えます。)



フイズキーパー (フイズキーパーにはピストン式やポンプ式などがありますが、この実験ではポンプ式を使います)



炭酸飲料用のペットボトル (必ず炭酸飲料用の丈夫なペットボトルを使ってください)



1 ペットボトルに少量の水を入れ、内側をまんべんなく濡しておく



2 ペットボトルにフイズキーパーをしっかりと取り付け、ポンプを20~30回押し、ペットボトルの中に空気を入れる (ボトルが固くなるまで空気を入れる)

※このとき、ペットボトルをこするなどして暖めておくと、雲ができてやすくなります



3 フイズキーパーのロックをはずして一気に空気を抜くとペットボトルの中が白く曇る

今回のふしぎワード

水蒸気

空気はおしちめると温度が上がり、ふくらませると温度が下がるという性質をもっています。空気には水蒸気という、目に見えない水がふくまれている。空気が含むことのできる水蒸気の量は、空気の温度が低いとその量も少なくなります。空気の温度が下がって、水蒸気の量がこの限界を越えると、限界をこえた分の水蒸気がごく細かい水滴になります。この細かい水滴が空気中にただよっているのが雲というわけです。今回の実験では、フイズキーパーのロックをはずした瞬間、圧縮された暖かい空気の温度が一気に下がり、たくさんの小さな水滴「雲」ができたのです。

BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ: (財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

ジュニア リバー スクール 2008 参加者募集のお知らせ

～見て聞いて学ぼう 淀川の水と文化、そして自然～

ジュニアリバースクールは、琵琶湖・淀川流域での体験学習を通じて身近な水環境を学び、河川、水、自然のあらゆる事を総合的に考えていく体験学習で、今年も淀川で開催します。鍵屋資料館や淀川資料館で淀川の歴史と文化について学び、その後枚方から天満橋まで船で下ります。途中、城北ワンドや毛馬開門を通過し、淀川の水質や自然に触れてもらいます。

- ◇開催日時:平成20年11月1日(土) 小雨決行
午前9時30分京枚方公園駅集合、午後4時天満橋解散(予定)
※集合場所等の詳細については、参加者へ別途通知

- ◇募集対象:琵琶湖・淀川流域に住む小学校4年生から6年生
※琵琶湖・淀川流域は琵琶湖~宇治川、桂川、木津川、淀川本川、猪名川の5流域で構成されます。

- ◇募集人数:40名(小学生とその保護者または引率者)

- ◇費用:無料
※集合場所までの交通費、解散場所からの交通費は各自でご負担下さい。
※昼食などは各自でご用意願います。

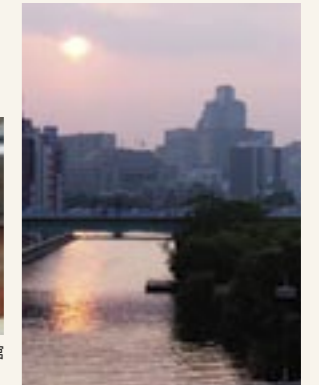
- ◇参加受付:参加申込は先着順に受付を行い、定員になり次第締め切ります。参加が決まった方へは、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構より通知いたします。

- ◇申込方法:申込は、個人(小学生と保護者)でも、グループでも受け付けます。ただし、学校、エコクラブなどグループで参加する場合は、こども5名に引率者が必ず1名同行するようにしてください。参加を希望される方は、申込用紙に必要事項を記入し、郵送かファックスでお送り下さい。電子メールで申し込まれる場合は、参加申込書同様の内容を記載して、申込用のアドレス(JRS2008@byq.or.jp)にお送りください。
※詳しくはBYQのホームページ(<http://www.byq.or.jp/>)をご覧ください。

- ◇問い合わせ先:財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部



鍵屋資料館



淀川の風景



船上体験学習

財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部 行き FAX番号 06-6920-3036

ジュニア リバー スクール 2008「見て聞いて学ぼう 淀川の水と文化、そして自然」参加申込書

小学校名 またはグループ名			
代表者 (引率者)	ふりがな		参加者 との間柄
	氏名		
	住所		e-mail
	電話	()	FAX ()
参加者	ふりがな	学 年	住 所
	氏名	年生	
	ふりがな	学 年	住 所
	氏名	年生	
	ふりがな	学 年	住 所
	氏名	年生	
	ふりがな	学 年	住 所
氏名	年生		

※応募いただいた方の個人情報については、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構が厳重に管理し、本件に関する以外にはご本人の承諾なしに第三者に提供することはありません。

水辺からのメッセージ



京都市では、今後10年間(2017年度まで)に上下水道事業が取り組むべき課題や目標をまとめた「京(みやこ)の水ビジョン」を昨年12月に策定しました。

このビジョンでは、都市の基盤施設であり、市民の日常生活に欠かすことができないライフラインのひとつである上下水道が果たすべき社会的役割や使命を基本理念として示すとともに、この基本理念の下に5つの施策目標を掲げ、さらに、この施策目標実現のために特に力を入れて推進していく必要がある22の重点推進施策を掲げています。

京都のまちは、琵琶湖から淀川、大阪湾、そして瀬戸内海に至る水の流れの中流域に位置しており、大自然が営む健全な水環境の一翼を担っています。そのため、下流域にくらす約1,100万人の人たちの水源を守り、地域住民や上流・下流双方の流域関係者と連携することにより、流域全体の水環境の保全に努める必要があり、上下水道を一体的に捉えたビジョンとして策定しています。

京都市では、間もなく水道創設100年、下水道創設80年を迎えます。この機に、次世代のあるべき上下水道施設への再構築を図るとともに、市民サービスの質的向上に重点を置いた新たな事業を展開し、皆さまの暮らしに安らぎと潤いをお届けしたいと考えています。

京都市上下水道局総務部総務課



*「京(みやこ)の水ビジョン」の詳細については、京都市上下水道局のホームページをご覧ください。

京都市上下水道局 | |

<http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/>

つくってみよう! 今回の植物 ▶ 紅葉

作者: 新宮文明
おりがみくらぶ (<http://www.origami-club.com/>)より転載

<p>1</p> <p>「つる」を折る手順で写真の段階まで折る</p>	<p>2</p> <p>裏側も同様に折る</p>	<p>3</p> <p>②の線に沿って折る (裏も同様に)</p>	<p>4</p> <p>③の線に沿って折る (裏も同様に)</p>	<p>5</p> <p>中の一枚を中割り折りする</p>
<p>6</p> <p>⑤の線に沿って折り、中の一枚を中割り折りする</p>	<p>7</p> <p>⑥の線に沿って折り、中の一枚を中割り折りする</p>	<p>8</p> <p>下の部分を線に沿ってかぶせ折り</p>	<p>9</p> <p>完成</p>	

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計16社(平成20年9月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設計シビル、(株)日水コン、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社



財団法人 **琵琶湖・淀川水質保全機構**

Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒540-6591 大阪府中央区大手前1丁目7番31号大阪マーチャンダイズ・マート(OMM)ビル13階
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036
ホームページアドレス<http://www.byq.or.jp/>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうるおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。



この冊子は再生紙を使用しています。